

**氏名** 加藤 敬

**フリガナ** カトウ タカシ

**職名** 学長

### **学位**

修士(教育学) 東京大学

学術修士(筑波大学)

### **研究分野**

教学マネジメント、高等教育の国際化、文化芸術政策

### **経歴**

2023年4月～現在 杉野服飾大学学長

2019年4月～2022年4月 独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館長

2016年9月～2019年3月 名古屋市立大学大学院人間文化研究科特任教授

2014年8月～2016年8月 文化庁文化部芸術文化課長

2012年4月～2014年7月 新潟県立大学事務局長

2009年4月～2012年3月 国連大学大学院事務局長

2006年10月～2009年3月 文部科学省科学技術・学術政策局国際交流官

2006年4月～2006年10月 文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室長

1987年4月 文部省入省

### **学歴**

2011年4月～2013年3月 東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース修了

1985年4月～1987年3月 筑波大学大学院環境科学研究科修了

### **講演・口頭発表等**

英国の先進事例に学ぶヘルスケアアートとそのマネジメント

加藤 敬

国際シンポジウム 2019年10月14日 なごやヘルスケア・アートマネジメント推進プロジェクト 東京国立近代美術館(招待有り)

エビデンスとは何か?ーアート活動におけるジレンマ

加藤 敬

アートミーツケア学会 2018年11月3日(招待有り)

高大接続改革をめぐる状況と課題

加藤 敬

東海地区大学教育研究会研究大会 2017 年 12 月 15 日(招待有り)

指定管理者制度の 10 年

加藤 敬

日本音楽芸術マネジメント学会 2015 年 11 月 7 日(招待有り)

## MISC

実務家教員の可能性と大学の役割

加藤 敬

文部科学省「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」TEEP 進化型実務家教員養成プログラム NEWS LETTER 1(1)2-4 2020 年 4 月

座談会「大学で”芸術家”を育てるとのこと」

加藤 敬

大学時報 359(359)16-31 2014 年 11 月

高等教育の質保証に関する国際的な取組み—国境を越えて提供される高等教育の質保証に関するガイドライン

加藤 敬

留学交流 18(5) 6-9 2006 年 5 月

(修士論文) 国境を越える高等教育の新たな枠組み形成に関する研究

加藤 敬

## その他

### 大学教育改革

第 6 回教育改革フォーラムで講演(2017 年 3 月 22 日)

「今、大学教育に求められていること—国の改革の動向と名市大のこれから—」

高大接続改革や文系学部の再編、また一貫性のある 3 ポリシー策定や学力の 3 要素の伸長、体系的な教育課程の構築、そして SD の義務化、戦略的な IR の重要性など、大学改革をめぐる動向について講演し、教職員とディスカッションを行った。

第 7 回教育改革フォーラムで講演(2017 年 9 月 8 日)

「全学的な教育推進体制構築の必要性」

講演後のパネルディスカッションで、質的転換答申(2012 年 8 月 8 日)が求める全学的な教学マネジメント体制の確立、大学教育の改革サイクルの構築、内部質保証システム(PDCA サイクルの回る仕組み)の構築について議論した。

第 8 回教育改革フォーラム兼東海地区大学教育研究会研究大会で基調講演(2017 年 12 月 15 日)

### 「高大接続改革をめぐる状況と課題」

高大接続改革の趣旨やその課題、大学入試改革をはじめとする大学をめぐる様々な状況について講演し、東海地区大学教育研究会参加大学教員らと本テーマに関する課題についてディスカッションを行った。

### 第9回教育改革フォーラム(2018年11月9日)

#### 「学士課程教育の国際化」

名古屋市立大学では、2018年度全学的な国際化基本方針や部局ごとの国際化推進プランを策定し様々な取組みを推進している。前任校でもある新潟県立大学の国際化に向けた取組みの具体的な事例に学びつつ、名古屋市立大学の学士課程教育の国際化に関する課題について、パネリストとして参加し、ディスカッションを行った。

### 教学マネジメント体制の確立

3つのポリシーの改訂(2017年度)を受けて、全学的な教育改革推進の司令塔としての「高等教育院」の創設(2018年4月)に参画した。高等教育院の下で、組織的、体系的な教育課程の開発と運用を図るため、カリキュラムマップ・カリキュラムツリーの作成、ナンバリングの設定等の施策を推進した。さらに、学生の主体的な学びを促すため、学修成果の測定・可視化に向けての調査研究(アセスメントポリシー、成績評価の平準化、測定・評価手法、学修ポートフォリオの活用等)を行った。

### 教職協働

#### 新規採用者研修で講演(2018年4月4日)

#### 「大学職員としての心構え」(持続可能な大学)

18歳人口減少という大学が直面する大きな課題に対して、大学がどのようにして生き残っていくか、そのためにはひとり一人の大学職員の強い意志と組織的な対応が不可欠なことを訴えた。教職協働を実現するために不可欠な事務職員の専門的能力向上のためSD講演会の講師を務めるなど、効果的な啓発・研修に取り組んだ。